

2021年9月28日 秋季学位記授与式式辞

静岡県立大学学長 尾池和夫

今日、学位授与された皆さん、おめでとうございます。静岡県立大学の教職員を代表してここからお祝い申し上げます。皆さんそれぞれのご家族にもお慶び申し上げます。ご家族や友人たちの支援があって、また皆さんご自身の努力があって、今日の学位授与となりました。学習の長い道のりも思い出せば、きっとさまざまな場面での楽しいことが甦ってくることでしょう。今日得られた学位は、一生の宝であり、また宝であるようにこれからの人生で活かしていただきたいと思います。

これからの世界は循環型社会をどのように構成するかということに関心があることになります。無駄を省くということが、あらゆる場面で課題となるのです。例えば、無駄な仕事をやめて働く時間を短くしつつ暮らしを豊かにするとか、無駄な食べ物を作らないようにしてゴミを減らすとか、無駄に資源を使わずに豊かな陸と海を守り、自然を大切にすることというようなことが課題となるのです。国連の提唱するSDGsの目標を、一人ひとりが理解して何らかの行動をすることが、持続可能な社会の実現にやがてつながっていきます。

今回の卒業式、学位授与式で学位を得られたのは、国際関係学部の4人の方、大学院博士後期課程薬食生命科学総合学府修了の3名の方、薬食生命科学総合学府に論文を提出して博士学位を得られた1名の方、合計8名の方々です。

このうち博士学位取得の方々の論文審査報告を私も読ませていただきました。薬科学専攻の八幡憲治さんは、単一生細胞質量分析法を用いた研究をされ、同じく横山匡さんは、脳梗塞患者に見られる副作用の発現に関連する研究をされました。薬食生命科学専攻の仁平拓也さんは、薬物動態制御技術を応用する研究を行いました。

また、論文博士の齋藤慎一さんは、製薬会社に所属しておられて、医薬品を製造する工程における品質を損なう要因となる傷害を研究対象とし、実生産での製造トラブル改善にまで寄与できる評価手法を見いだしました。私は20年前から循環器のトラブルで入退院を繰り返しており、細胞から脳梗塞、薬剤など、私自身がたいへん興味深い分野でもあって、いづれにしても個人的に興味を持つ内容でした。

皆さんの長い年月の学習と研究の努力によって得られた学位です。学位の名にふさわしい職場を得られ、学習し、また研究してこられた分野の知恵を活かしながら、これから世界の舞台上で活躍していただきたいと願っています。

明日からは、この静岡県立大学が皆さんの母校です。母校の後輩たちのことにも思いを寄せて、大学の状況も時には気にかけていただきたいと思います。

この大学では今年度、初めて理事長と学長を一体化させました。今年中に、公立大学法人

と大学の事務機構を再編成して機能的な職場にします。そして来年度には仕事の内容を精査して無駄を省くことに取り組む所存です。日本の大学は危機感に乏しく、遅々として改革が進みませんが、大学は自らの努力で変革しなければならない組織です。

大学を変えることが重要だと私は思っています。そのためには大学で仕事する職員の意識が変わることが重要です。教職員の一人ひとりが、大学のことを一所懸命考える人でなければなりません。今年は若手だけでなく、初めて年長の職員も公募して大学プロパーの職員を採用する方針です。

これからの大学は、社会人が学習できる場でなければなりません。技術が高度に進んだ社会で活動するためには、時に新しい分野に関する新たな学習が重要になることが起こります。大学で学位を得られた皆さんは、こらからの生涯でも、常に学習歴を更新しながら、社会の状況の変化に対処して行かなければなりません。そのような時に、この母校でも、学習したい社会人のニーズを受け止めることができるようにしておくのが、これからの大学の役目となるはずで。そのような皆さんの目的にも合うような大学を私たちも目指していきたいと思っています。

新型コロナウイルスによる感染症の行方がまだ明確には見えていません。皆さんにも学習と研究の上で、また課外活動などのキャンパスライフでも、たいへんなご不便を乗り越える努力をお願いすることになり、心苦しく思っております。どうか、今後とも心身の健康に十分留意されて、楽しく人生を送っていただきたいと思います。皆さんの未来を祝福して私の式辞といたします。

ご卒業、学位授与、おめでとうございます。ありがとうございました。